

大学機関別認証評価

自己評価書

平成19年6月

鹿児島大学



## 目 次

大学の現況及び特徴	1
目的	2
基準 1 大学の目的	3
基準 2 教育研究組織（実施体制）	11
基準 3 教員及び教育支援者	27
基準 4 学生の受入	47
基準 5 教育内容及び方法	57
基準 6 教育の成果	109
基準 7 学生支援等	115
基準 8 施設・設備	131
基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	137
基準 10 財務	145
基準 11 管理運営	153



## I 大学の現況及び特徴

### 1 現況

(1) 大学名 鹿児島大学

(2) 所在地 鹿児島県鹿児島市

(3) 学部等の構成

学部： 法文，教育，理，医，歯，工，農，水産

研究科： 人文社会科学，教育学，保健学，理工学，農学，水産学，医歯学総合，司法政策，臨床心理学，連合農学

附置研究所：教育実践総合センター，南西島弧地震火山観測所，附属農場、附属演習林、附属動物病院，海洋資源環境教育研究センター，難治ウイルス病態制御研究センター，医学部・歯学部附属病院

関連施設：附属図書館，保健管理センター，多島圏研究センター，留学生センター，総合研究博物館，学術情報基盤センター，生涯学習教育研究センター，教育センター，稲盛経営技術アカデミー，フロンティアサイエンス研究推進センター，産学官連携推進機構，埋蔵文化財調査室

(4) 学生数及び教員数（平成19年5月1日）

学生数：学部 9,368名，大学院修士課程(博士前期) 1,730名， 大学院博士課程(博士後期又は専門職学位課程)101名， 教員数：1,046名

### 2 特徴

(1) 鹿児島大学の位置づけと沿革

本学は、その拠点が日本列島の南端、海洋と島嶼がつくる豊かな自然環境に恵まれた地にある。ここは古くから海外と交流し、異文化を先導して移入し、豊かな文化を育ててきた日本列島の南の玄関に当たり、わが国の近代化を先駆けて推進した秀でた人材を多数輩出してきた。

このような歴史・風土のもとに、それぞれの伝統ある歴史を持った第七高等学校・鹿児島師範学校・鹿児島青年師範学校・鹿児島農林専門学校及び鹿児島水産専門学校を母体として、昭和24年に新制国立大学として鹿児島大学（文理・教育・農・水産の4学部）は発足した。昭和30年に医学部・工学部が県立大学から移管され、その後、昭和40年に文理学部の改組（法文学部・理学部及び

教養部の新設）や昭和52年に歯学部の設置、更には昭和60年に医療技術短期大学部の設置（現在の医学部保健学科）、昭和63年に連合農学部研究科の設置という変遷を経てきた。専門職大学院（司法政策研究科及び臨床心理学研究科）が平成16年および19年に設置された。

大学は、鹿児島県（人口174万人）の県庁所在地である鹿児島市内の主に3つのキャンパス郡元（法文、教育、理、工、農学部）、桜ヶ丘（医、歯学部）、および下荒田（水産学部）に分かれて存在している。また、県内各所に演習林や観測所等の施設を有している。

教養教育に関しては、平成8年度から従来の教養課程と専門課程の区別を廃止し、新たに共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目に区分した教育課程を編成し、4年(6年)一貫教育を全学教員の参加のもとに実施した。さらに平成9年度に教養部を発展的に解消し、共通教育委員会を置く教育研究組織の改革を行った。平成15年から教育センターが発足して、共通教育を担っている。

(2) 鹿児島大学の基本理念

本学は、地理的条件や歴史的な経緯により地域が育んできた特性を受け継ぎ、学生、教職員が地域社会と一体となって、学術文化の向上、基本的人権ならびに自由と自主の尊重、人類の福祉と連帯、世界平和の維持及び地球環境の保全、すなわち地球規模での新しい豊かさの実現に努め、世界を先導する総合学術共同体を目指すことを基本理念とする。

この基本理念を達成するために、教育と研究と社会貢献を3つの基礎的な使命として掲げている。

教育においては真理を愛し、高い倫理観と芸術性を備え、自ら困難な諸課題に立ち向かう人格を育成することを目指している。

研究においては、地域と世界が求める新しい学術の体系と枠組みの創出に果敢に挑み、その成果を世界に発信する。基礎的な研究を重視し、先端的な応用研究を推進することを目指している。

社会貢献においては、地域の多様な要請に応える研究を通して、地域社会と国際社会に貢献する世界的な学術拠点を目指している。

## 目的

鹿児島大学の基本理念及び使命を具現化するために、組織運営の不断の自律的改善に努め、全学的な合意形成を図りながら、社会や時代のニーズに応える教育・研究組織を柔軟に編成し、21世紀の鹿児島大学の構築に向け、以下の基本的目標を掲げている。

### 1．教育に関する基本的目標

教育の重要性を認識し、教育目標、到達目標を明確にし、適正な評価を実施する。真に充実した教養教育を実施し、個性豊かで創造的チャレンジ精神に富み、創意工夫に優れ、高い倫理観を持ち、社会の向上を志す人材を養成する。専門教育の高度化並びに大学院の充実を図り、高度な専門知識・技術・技能を有し、国際的に活躍できる人材、研究者を養成する。

### 2．研究に関する基本的目標

温帯から亜熱帯まで、南北600kmに及ぶ広大で多様性に満ちた自然を有し、南北の文化が接する地域に立地する利点を活かし、自然、歴史、文化、産業、医療分野等の地域的かつ世界的課題について研究を進め、その成果を世界に発信する。総合大学の特色を活かし、学部・研究組織を超えた総合的、学際的研究を強力に進めつつ、自由な環境の下での個性的、独創的研究を奨励し、先端、応用及び基礎領域において世界トップレベルの研究成果を生みだし「世界の鹿児島大学」を目指す。

### 3．社会との連携に関する基本的目標

地域における産業・文化・教育・医療の多種多様な要請に応えるとともに、産学官連携を推進し、それらの発展に積極的に貢献する。さらに、教育・研究両面で地域の文化中枢としての機能を強化発展させる。

### 4．国際交流に関する基本的目標

東アジア、東南アジア及び南太平洋諸国の大学を中心に、広く海外の大学、国際機関との連携を深め、国際交流を積極的に進める。研究者・学生の双方向交流及び国際共同研究を一層推進するとともに、受け入れ体制を整備し、世界各国から研究者及び留学生を積極的に受け入れる。

### 5．環境整備に関する基本的目標

キャンパス整備計画を整理し、教育研究環境、修学環境、附属病院環境を向上させる。地域との一体化を目指した周辺環境整備にも配慮する。

### 6．管理・運営に関する基本的目標

現今の世界と日本での急速な変化に対応するため、鹿児島大学の制度・組織に関する全学的構想の立案と実施に努め、常に主体的自律的に改革を行い、学長を中心とした円滑な意思決定形成とダイナミックで機動的な管理・運営を行い、社会的責任を全うする。

以上、基本的目標を示したが、本学はこれまで南九州の中核的な総合大学として、その風土、歴史、伝統、文化を尊重しつつ、地域社会における「知の創造拠点」と「人材の育成拠点」として地方大学の使命を果たしてきた。さらに、産学官連携により地域特有の課題を共有し、その課題解決の手法を探りながら教育研究及び地域社会の活性化にも寄与してきた。今後もこれら地方大学本来の役割を果たし、南九州全域の学術・文化の中心として、地域社会に貢献していくことはもちろんのこと、国際社会に貢献する総合大学を目指していく。